

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## 2019年度大障教本部交渉

# 「過大・過密」を解消し、 子どもたち一人ひとりを大切にする 教育条件整備を

### 学校建設、実習教員採用選考の受験資格、学校予算拡充、 寄宿舎設置校に栄養教諭の複数配置などを訴え



あいさつする戸田委員長

12月25日、大障教は教育振興室長をはじめ、各担当課長と本部交渉を実施しました。交渉には、35人が参加し、学校予算、旅費予算の増額や学校の適正規模・適正配置等による教職員の負担軽減、寄宿舎教員の採用選考実施等による教職員の負担軽減、寄宿舎設置校に栄養教諭の複数配置による教職員の負担軽減、「教職員の評価・育成システム」の廃止と「評価結果」の賃金リンク撤回などの重点要求について、担当課長の見解をただし、改善を求めました。

交渉での主なやりとりを紹介します。(2回に分け、次号で後半部を掲載)

### 学校の「過大・過密」解消、四條畷校の

### 本校化等による教職員の負担軽減

交野支援学校四條畷校分会は、新たな通学区域割変更によって、小中高一貫教育が保障されていない北河内の現状や、生徒数増による「過大・過密」が深刻化し、より劣悪な教育条件で負担を強いられる生徒と教職員の実態を訴え、早期にスプリンクラーをつけて小中高等部を備えた四條畷校の本校化を強く求めました。交野支援学校分会は、過去に同一敷地内で知肢併置されていた時の児童生徒の劣悪な教育条件や教職員の多大な業務負担・精神的負担の実態を訴え、肢体不自由支援学校に知肢併置をすすめる基本方針の撤回を求めました。支援教育課は、「知的障がい

### 学校管理費の増額による教職員の負担軽減

2016年度以降、学校管理費、教材費ともに減少してきている中で、教育活動に支障や制約が生じ、教職員の業務や自己負担が増えている実態などを示し、学校管理費を大幅に増額するなどして学校運営を円滑にし、教職員の負担軽減をはかることを求めました。

(裏面に続く)

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



山本周五郎『小説 日本婦道記』シリーズに類する、十七編の短編『髪かざり』(新潮文庫)の読後感には、山本自身が「非常に心外である」とした、「女性だけが特別に不当な犠牲を払っている」と感じさせるものが多かった。

作者健在の当時に、一部の同様な非難に対して、山本は「日本の女性の一番美しいのは、連れそっていても夫がつかないというところに非常に美しくあらわれる……、これが日本女性の特徴ではないか」と思っている一連の小説を書きました」と論及しており、当時の性別に関する社会的規範や「性差」についての価値観が見えてくる。

また、これらの短編が発表された、昭和18年から20年の戦時下という時代背景が色濃く影響していることを感じさせる一冊でもあった。女性に限らず「国」や「家」のために生命をかけることを「大義」とする内容がほとんどで、辟易しながら何とか読了した。

山本の「女性だけが特別に不当な犠牲を払っているようなものは一篇もない」という言葉は、描かれた時代の社会的規範や価値観に照らしての反論としては受け入れられる。

けれども、時とともに移り変わっていく時代ごとの価値観に当てはめ直そうとすると無理があるのは当然だろう。まして、LGBT(性的少数者)やハラスメントなど、多様に変化してきた今の価値観に照らせばなおさらだ。

とはいえ、国会で選択的夫婦別姓についての論議中に「だったら結婚しないでいい」とのやじが発せられるように、日本におけるジェンダー平等は立ち遅れている。男性も女性も多様な性をもつ人たちも差別なく平等に尊厳をもって、自分の力を存分に発揮できる社会の実現にはまだまだ道半ばである。

(表面よりの続き)

### 老朽化等の抜本的改修

壁の崩落やシャッターの不具合など、老朽化の影響で安全配慮など、これまで以上に教職員が大きな負担を負っている実態を示し、老朽化がすすむ各学校の安全対策など、抜本的対策を求めました。

施設財務課は、「平成28年度からの3年間で行った劣化度調査を踏まえ、2020年3月に『府立学校施設長寿命化整備方針』の成

案化を予定しており、今後この方針に基づき、老朽化対策に取り組んでいく」「緊急度の高い対策については学校と十分協議の上、必要な対策を講じていく。なお、学校施設の安全性を把握するため、建築基準法第12条に基づく法定点検を令和元年度末にかけて実施しているところである」と説明しました。

### 必要な旅費予算の確保による教職員の負担軽減

旅費予算の大幅削減によつて、宿泊行事の泊数縮減や行先変更を迫られている実態、家庭訪問の回数や人数をひとりに制限せざるをえない実態や研修参加の人数が減らされ制約がかか

る中で勤務時間内の伝達

給食調理場における空調整備の必要性を確認し、環境改善を必要とする劣悪な施設設備の学校への早期改修を訴えました。

保健体育課は、「毎年実施している各学校への巡回指導の際や学校からの要望に基づき、衛生面での必要性などを考慮し、緊急性の高いものから順次、改修等を実施している」「今年度は通常の改修を1校、ダウンサイジングの整備を2校おこなった。引き続き来年度もこのようなやり方も含めて整備を進めていきたい」「具体的な検証データは持っていないが、去年と違うという声を聞いている。命に直結するものに関しては、何らかの手立てをする必要がある」と説明

### 給食厨房の施設改修

講習などの負担が生じている実態などを示し、旅費予算の確保を求めました。

学校総務サービス課は、「府の財政は依然厳しい状況だが、今後とも引き続き生徒の安全管理や学校運営に支障をきたさないよう財源

の確保に努めていく」「家庭訪問は保護者との関係というところが私どもも重視している。必要な家庭訪問については、校長先生と相談した上で学校から学校総務サービス課に言っただけだと思ふ」と述べました。



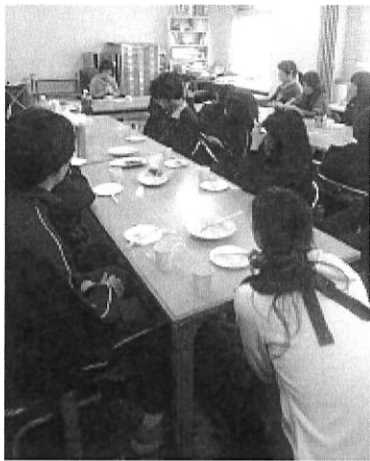
調理業務委託仕様書の「資格要件の緩和」は学校給食に対する安全安心を脅かし、栄養教諭等の負担の増大につながることを指摘し、調理業務民間委託化方針の撤回を求めました。また、民間委託化の是非についての客観的・専門的な検証とともに、栄養教諭の負担を軽減する具体的な方策を示すよう強く訴えました。

保健体育課は、「民間委託化を進める中で、どのように調理業務を安定させていくかが非常に課題であり、

人材の確保が難しい状況にある。資格免許不要については、そうした中で現場に支障が生じないような形で調理員の参入を考えたものである」「今回資格免許不要とした点に関しては、会社の方で指導ができる体制、府や学校への定期的な報告や学校との丁寧な協議も含めて対応するよう仕様書に書くなどして、安全で安心な給食調理を進めていきたい」と述べました。

(次号に続く)

## 毎年恒例！堺支援分会旗開き



中華風おかずで盛り上がり

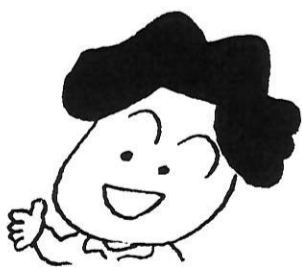
1月8日、始業式の日のお昼休みに堺支援分会の旗開きをしました！今年の旗開きでは、中華風おかずと「一人旅のすすめ」として一人旅がマイブームな先生の珍道中のお話を聞き、たくさんの笑いの中、学部を超えてコミュニケーションを深めることができました。海外への一人旅は迷いながらも観光を楽しむことができるというお話を聞いて、ドキドキしますが、一人旅のベテランの先生に教わりながらチャレンジしてみたいと思いました。(小島良平)

## 全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その2)

### 保護者の想いを聞く大切さ

集会参加は昨年到现在も参加したことはあるのですが思い出せないのです。「行かないと学べない」との思いはあるのですが、自分が感じた事、発見した事、実践のヒントはきちんと職場で話題にする事が大切だと

今回参加は昨年到现在も参加したことはあるのですが思い出せないのです。「行かないと学べない」との思いはあるのですが、自分が感じた事、発見した事、実践のヒントはきちんと職場で話題にする事が大切だと



3日目のフォーラムでは、保護者の方が寄宿舎への想

一部分ですが)を改めて職員が聞くべきだと思いましたが。そして、その機会は寄宿舎の少ない大阪で作るべきだと思いましたが。まずは職場で神戸に参加した事を話します。

(大阪北視覚支援学校 分会 井原規夫)